

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添

なし

応募概要	分野	伝統芸能	種目	邦楽	
	応募区分	特別エリア区分			
	複数応募の有無	有	応募総企画数	2企画	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	ゆうげんがいしや こてんくうかん		
	制作団体名	有限会社 古典空間		
	代表者職・氏名	代表取締役 小野木豊昭	団体ウェブサイトURL https://www.koten.co.jp/	
	制作団体所在地	〒 151-0062	最寄駅(バス停)	代々木上原駅
		東京都渋谷区元代々木町10-2 西俣ビル1F		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな	へいけかたりけんきゅうかい		
	公演団体名	平家語り研究会		
	代表者職・氏名	代表・薦田治子(武蔵野音楽大学名誉教授)	団体ウェブサイトURL https://heike-katari.com/	
	公演団体所在地	〒 112-0002	最寄駅(バス停)	東京メトロ丸の内線茗荷谷駅
		東京都文京区小石川5-13-12		
	制作団体 設立年月	平成10年5月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
代表取締役 小野木豊昭		制作スタッフ4名、経理スタッフ1名 伝統芸能の普及・振興に寄与することを 志す25歳以上の男女		
事務体制 事務(制作)専任担当者の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名	小野木豊昭	
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	大貫信子	
本応募にかかる連絡先	メールアドレス info@koten.co.jp		電話番号 0354788255	

制作団体の実績	<p>1990年 伝統芸能企画制作オフィス<古典空間>を設立。1998年 法人化。</p> <p><古典空間の思い> さまざまな日本の伝統芸能の公演をプロデュースし、皆様のもとへお届けすること。 ステージと客席との間に見えない“火花”が散っている、そんな劇場・<舞台空間>を 日本の伝統・<古典>芸能でつくり出し、伝統文化をも基盤とする社会づくりを目指すこと。 <古典空間>という社名にはそんな思いが込められています。</p> <p><主な業務内容> <伝承><普及><創造>3点をコンセプトに、邦楽、話芸、日本舞踊など伝統芸能を専門に、 以下の各種事業を展開している。 •全国各地における自治体の文化事業及び公共ホール自主事業公演の企画・制作 •伝統文化を基軸にした教育及び地域振興に関する講演、アドバイス、コーディネートなど •全国各地における学校公演のコーディネート、企画・制作 •外務省、各國大使館等主催による海外公演コーディネート、企画・制作 •伝統芸能関連イベントのプロデュース、企画・制作、アーティスト派遣 など</p> <p><主な業務実績(学校公演以外)> •2012年 東京都他主催<東京発・伝統WA 感動>より 『三弦 海を越えて』『邦楽ワンダーBOX』等の企画・制作 •2012年 東京スカイツリーオープニングイベントの制作 •2013年～現在 アーツカウンシル東京他主催『神楽坂まち舞台・大江戸めぐり』の企画・制作 •2014年～現在 公益財団法人名取市文化振興財団主催『名取寄席』の企画・制作 •2015年～現在 徳島県文化振興財団主催『徳島邦楽ルネッサンス』諸公演の企画・制作 •2018年 『劇場・音楽堂等 伝統芸能事業企画制作ハンドブック』文化庁委託事業として (公社)全国公立文化施設協会より刊行(代表・小野木豊昭ら編集委員) •2020年～現在 かながわ伝統芸能実行委員会(神奈川県)主催 「かながわ伝統文化こども歳時記」(神奈川県の伝統文化の紹介と体験事業) 企画・制作 •2021年 東京都/(公財)東京都歴史文化財団 東京芸術劇場主催 「芸劇サウンド・オアシス」(東京五輪関連事業)企画・制作 ほか、全国各地の継続を旨とした、伝統文化を基軸にする文化事業の企画・制作</p>
	<p>学校等における公演実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 茨城県小美玉市学校アクティビティ事業、市内の幼稚園、小・中学校 巡演(2005年～2017年) 尺八/津軽三味線/和太鼓/箏などによるレクチャー&デモンストレーションを合計150回以上実施 新潟県十日町市立南中学校邦楽鑑賞教室(2006年～2018年) 邦楽囃子(若獅子会)/胡弓/尺八/琵琶などの公演を毎年実施 東京都北区スクールコンサート(2012年～現在) 津軽三味線/和太鼓コンサートを合計50回以上実施 ほか、これまで250校以上の公演実績あり
	<p>特別支援学校等における公演実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 2017年 「語ってみよう！義太夫節！」 茨城県立友部東特別支援学校 2018年 「打てや、囃せや、邦楽囃子！」 山梨県立ふじざくら支援学校、 東京都立青峰学園(特別支援学校) 2019年 「三味線ナビ♪～聴いて納得、観て楽しい、三味線ワールド～」 香川県立香川西部支援学校 2021年 「打てや、囃せや、邦楽囃子！」 北海道鷹栖養護学校 2022年 「語ってみよう！義太夫節！」 長野県長野盲学校 2023年 「語ってみよう！義太夫節！」 茨城県結城特別支援学校、茨城県協和特別支援学校

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有			
	※公開資料有の場合URL	https://heike-katari.com			
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	<table border="1"> <tr> <td>ID:</td> <td></td> </tr> <tr> <td>PW:</td> <td></td> </tr> </table>	ID:		PW:
ID:					
PW:					

別添

あり

【公演団体名】

平家語り研究会

】

対象	小学生(低学年)		小学生(中学年)	
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	琵琶法師たちが伝えた『平家物語』と日本の音楽			
企画のねらい	<ul style="list-style-type: none"> 中学二年生の国語の教科書にも採り上げられている『平家物語』に、「語り」や音楽の側面から触ることで、児童・生徒には楽しく分かりやすくその価値をお伝えできます。 日本を代表する古典文学である『平家物語』は、琵琶法師が語る音楽作品でもあります。それがどのようなプロセスで伝えられてきたのかを知ることにより、800年前の音楽に出会うだけでなく、その担い手がやがて美しい三味線音楽や箏曲を生み出していくという日本の芸術音楽の大きな流れを知ることができます。 現在伝承されている日本の四種類の弦楽器[琵琶、箏、三絃(三味線)、胡弓]の素材や構造、そして音色や奏法に触れることで、伝統音楽、ひいては日本文化への興味・関心への契機となります。 日本の伝統楽器が奏でる優しく、力強く、リズミカルなアンサンブルによって、児童・生徒に「音楽の楽しさ」を感じていただきます。 			
演目概要・演目選択理由	<p>別添(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 三人の音楽家が、平家琵琶、三絃、箏、胡弓、四種類すべての楽器を演奏する姿を通して、今に伝わる「日本の音楽」をつくり伝えてきた音楽家たちのことを紹介し、その歴史をお伝えできること。 『平家物語』を古典文学としてだけではなく、「平家(平曲)」という語り芸の側面よりお伝えできること。 指揮者がいなくても演奏できる、日本の伝統音楽のすばらしい仕組みをお伝えできること。 <p>上記目的に沿って、少人数ならでは、また子どもたちの理解の段階を考慮した「順序」と「体系」で構成しました。</p> <p>①三曲合奏「六段の調(ろくだんのしらべ)」(抜粹) 箏の演奏から始まり、三絃、そして胡弓と楽器が加わり、爪で弾く、バチで弾く、弓で擦(こす)るという「奏法の違い」、またそれぞれの楽器の「音色の違い」を楽しむことができます。 古典音楽を代表する一曲を通して、緊張をほぐしていただきます。</p> <p>②楽器紹介・その1【三絃、箏、胡弓】 三絃・箏・胡弓、それぞれの楽器が、どんな材料でできているのか?どんな構造になっているのか? そしてどのように音を出すのか?などを、クイズ形式などを採り入れて順次分かりやすく説明するコーナーです。 ※三味線は三曲合奏の世界では「三絃」と言われており、この公演では子どもたちには説明の上、その言い方を用いることとします。</p> <p>③楽器紹介・その2 平家琵琶 古典音楽を楽しんでいただくために、ワークショップでは演奏で紹介した平家琵琶のことを、さらに深く知っていただけます。 『平家物語』と、それを伝えた琵琶法師をテーマにしたレクチャー&デモンストレーションで、質疑応答コーナーも設けます。</p> <p>④体験発表コーナー 「私は○○小学校(中学校)の琵琶法師!」 ワークショップで練習した「祇園精舎(ぎおんしょうじや)」を、平家琵琶の演奏と一緒に、希望する児童・生徒に語ってもらいます。</p> <p>⑤平家琵琶で“語る”校歌! ピアノの伴奏で訪問する学校の校歌を歌っていただいた後、平家琵琶の「節(ふし)」を用いて、校歌の歌詞を語ってみるコーナーです。普段歌っている校歌を800年前にタイムスリップさせ、子どもたちに想像した世界をインタビューします。</p> <p>⑥平家琵琶演奏「那須与一(なすのよいち)」(抜粹) 『平家物語』より、屋島の戦いの中のエピソード「扇の的」で有名な、若武者・那須与一の活躍を、本格的な平家琵琶の演奏でおとどけします。</p> <p>⑦三曲合奏「松竹梅(しょうちくばい)」(抜粹) 松竹梅をはじめとする“おめでたい”物がたくさん歌われ、今でも多くの演奏家が奏でる古典曲を代表する一曲です。 心に残るきれいな節や、スピード感にワクワクしたり、超絶技巧に思わず目を奪われる演奏など、児童・生徒でも聴き応えのある、最後を飾るに相応しい曲です。</p>			

本公演・ワークショップの内容

児童・生徒の参加または体験の形態	<p>・「②楽器紹介・その1 三絃、箏、胡弓」では、実際に楽器に触れたり、クイズ形式で楽器紹介を行うなど、児童・生徒とできる限りコミュニケーションを図り、子どもたちには安心感と共に少人数ならではの、出演者との親密な関係性構築を目指します。</p> <p>・「③楽器紹介・その2 平家琵琶」では、ご紹介した楽器や、三人の演奏家自身に関する質疑応答コーナーを設け、さらに積極的に児童・生徒との距離を縮めることに努めます。</p> <p>・「④体験発表コーナー 私は〇〇小学校(中学校)の琵琶法師！」は、同日、本公演前に行われるワークショップの延長に位置付け、全員で体験した『平家物語』の冒頭の名文「祇園精舎(ぎおんしょうじや)」を会場に集まつた皆さまの前で、希望する児童・生徒に語って(演じて)もらった後、感想を聞くなど、出演者と子どもたちとの関係性を深めます。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人數目安	1~15名(④で発表する児童・生徒)
<p>①三曲合奏「六段の調(ろくだんのしらべ)」(抜粹) 伝・八橋検校作曲 自己紹介の後、日本の絃楽器を代表する三絃(三味線)、箏、胡弓の演奏を聴いていただきます。 客席の配置は、演奏家を取り囲むような形状で、演奏する手元が見えるように努めます。</p> <p>②楽器紹介・その1 【三絃、箏、胡弓】 クイズ形式や楽器に触れるコーナーを設けるなど、子供たちとの距離を縮めつつ行う楽器紹介です。</p> <p>③楽器紹介・その2 平家琵琶 『平家物語』の名場面の物語紹介、琵琶法師の演奏する姿などをイラストや残された絵などを簡易スクリーンに投影しながら説明します。</p> <p>④体験発表コーナー 「私は〇〇小学校(中学校)の琵琶法師！」 平家琵琶の実際の演奏に合わせて、希望する児童・生徒に「祇園精舎」の一節を語ってもらいます。 出演者が横に寄り添い共に口ずさみながら応援します。</p> <p>⑤平家琵琶で“語る”校歌！ ピアノ伴奏による児童・生徒による校歌披露の後、お送りいただいた校歌の歌詞に事前に節付け(アレンジ)して臨みます。</p> <p>⑥平家琵琶演奏「那須与一(なすのよいち)」(抜粹) 作者未詳 簡易スクリーンに詞章(セリフ)を投影しつつ、事前に物語の内容をお伝えした後に演奏します。 詞章は投影したまま演奏し、ポインターで演奏箇所を差し示しつつ、子どもたちにも情景が浮かぶように工夫を重ねます。</p> <p>⑦三曲合奏「松竹梅(しょうちくばい)」(抜粹) 三ツ橋勾当作曲 この曲の背景と、歌われる部分があるため歌詞の内容を説明し、詞章(歌詞)は簡易スクリーンに投影した状態で演奏します。</p>			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	公演時間	80	分
出演者	<p>平家語り研究会【菊央雄司、田中奈央一、日吉章吾】 文化庁の委託を受けて、盲人音楽の伝統を守りつつ伝承された平家語りを、高い芸術性と確かな技術をもって次世代に伝えることを目的に活動している研究会。 武蔵野音楽大学教授・薦田治子の呼びかけに応じ2015年より活動を開始。 さまざまな日本の芸能に大きな影響を与えた平家語りの紹介普及にも努めている。</p>		
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	<p>菊央雄司(きくおう ゆうじ) 大阪府出身。地歌箏曲家。2002年より文化庁の新進芸術家国内研修員として平家琵琶演奏家・今井勉氏より平家琵琶の指導を受ける。長谷検校記念全国邦楽コンクール最優秀賞、大阪舞台芸術新人賞、大阪文化祭奨励賞、日本伝統文化振興財団賞、令和5年度文化庁芸術選奨新人賞など受賞。文楽研修生講師。</p> <p>田中奈央一(たなか なおいち) 東京都出身。山田流箏曲家。東京藝術大学邦楽科卒業。同大学院修士課程修了。文化庁新進芸術家国内研修員修了。NHK邦楽技能者育成会第五〇期首席卒業。古典・現代箏曲の演奏のほか、声優の堀江一眞と朗読音楽劇「声劇和楽団」を主宰。東京藝術大学非常勤講師。都立王子総合高校特別専門講師。中能島会所属。</p> <p>日吉章吾(ひよし しょうご) 静岡県出身。生田流箏曲家。東京藝術大学邦楽科卒業。同大学院修士課程修了。箏、三絃、胡弓を修め、2015年より平家語り研究会に参加し、平家琵琶の伝承研究にも取り組んでいる。2014年利根英法記念コンクール最優秀賞受賞。2016年 平成二十八年度文化庁芸術祭新人賞受賞。正絃社師範。東京藝術大学非常勤講師。</p>		
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人 数含む	出演者: 3 名 スタッフ: 3 名 合 計: 6 名	運搬	積載量: 1.6 t 車 長: 4.6 m 台 数: 1 台

本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュー ル)の目安	前日仕込		無	前日仕込所要時間		時間程度		
	到着	仕込	上演	内休憩	撤去			
	10:00	11:00～12:00	14:00～15:20	10	15:20～16:30	16時30分		
	※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。							
本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月	8月		9月		
	5日		15日	5日		15日		
	10月		11月	12月		1月		
	15日		10日	10日		10日		
※平日の実施可能日数を記載ください。				計	85日			
本公演・ワー クショッ プの内 容								
								
	公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出 がわかる写真)							
		※会場条件につ いて最低限必要 な条件がある場 合には、様式 No.4内「会場簡						
	各種上演権、使用権等の許諾手続の要 否							
著作権、上演権等 の許諾状況	該当事項がある 場合	権利者名	該当なし	該当コンテンツ名				
				許諾確認状況				

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名 平家語り研究会】

ワークショップの内容	ワークショップのねらい	<ul style="list-style-type: none"> 演奏を聴いてもらうことから始めることで、堅苦しい“勉強”ではなく、「楽しい演奏会とワクワクする体験が始まる期待感」を抱いていただきます。 馴染みが薄いと思われる日本の伝統楽器、及び、初対面の紋付・袴姿の演奏家に接する緊張感を解きほぐし、芸能を楽しみ、興味関心の入口をつくります。 集合した児童・生徒全員が気持ちを合わせて、「祇園精舎」を大きな声で唱和することで、本公演への興味関心につなげ、一体感を醸成します。 		
	児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人數目安	～100名
	<ul style="list-style-type: none"> ・箏・三絃・胡弓による合奏 子どもたちにも耳馴染みのよい楽曲をの演奏を聴いていただきます。 ・自己紹介と楽器紹介 各自が日本の楽器を演奏する音楽家であると同時に、四種類の楽器をすべて演奏することができるところまでを、実演と共に伝えします。 「なぜそんなことができるのか？」の答えは本公演のお楽しみとします。 ・『平家物語』より「祇園精舎」を平家琵琶の語りで披露 内容の説明は本公演で行うこと(イラスト投影などの手法)を告げ、まず全員で平家琵琶の語り口による「祇園精舎」にチャレンジしていただきます。 ・お稽古 全員体験が終了後、本公演の「④体験発表コーナー 『私は○○小学校(中学校)の琵琶法師!』」のコーナーで、全校生徒や先生方、また地域のお客さまの前で、平家琵琶の演奏と共に成果発表を希望する児童・生徒を募り、本番までの時間を利用してお稽古をします。 			
	ワークショップ実施形態及び内容			
	その他ワークショップに関する特記事項等	<ul style="list-style-type: none"> 当日に向けて、不安感を払拭でき、期待感を高めるための学習ポイントを記したプリントを事前に配布します。 		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名】

平家語り研究会

】

記載方法等	例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。				
	・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。				
	・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。				
	・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。				
	上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。				
	任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。				
	詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただることになります。				
	なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。				

会場条件	(必須) 公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。				
	会場の設置階の制限	条件なし	主幹引き込み電源容量	20 A以上	
	舞台設置面積	間口	4 m	奥行	2 m
		高さ	制限なし	m	
	舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応	可
	搬入間口の広さ	幅	1.5 m	高さ	2 m
	遮光の要否	7割程度必要	縦幕の要否	あれば使用する可能性がある	
	ピアノの使用について	あれば必要に応じて使用する	ピアノを使用する場合の設置位置の指定	あり	
			ピアノを使用しない場合の移動の要否	不要	
	搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談	トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離	m以内	
	搬入車両の種類	ハイエース	台数	1 台	
	搬入車両の大きさ	車幅	1.8 m	車長	5 m
	備考				

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報	(任意) 学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。				
	会場図面の提出要否	要			
	その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	電源(コンセント)の各位置および容量の情報をご提供頂けると有り難いです。			

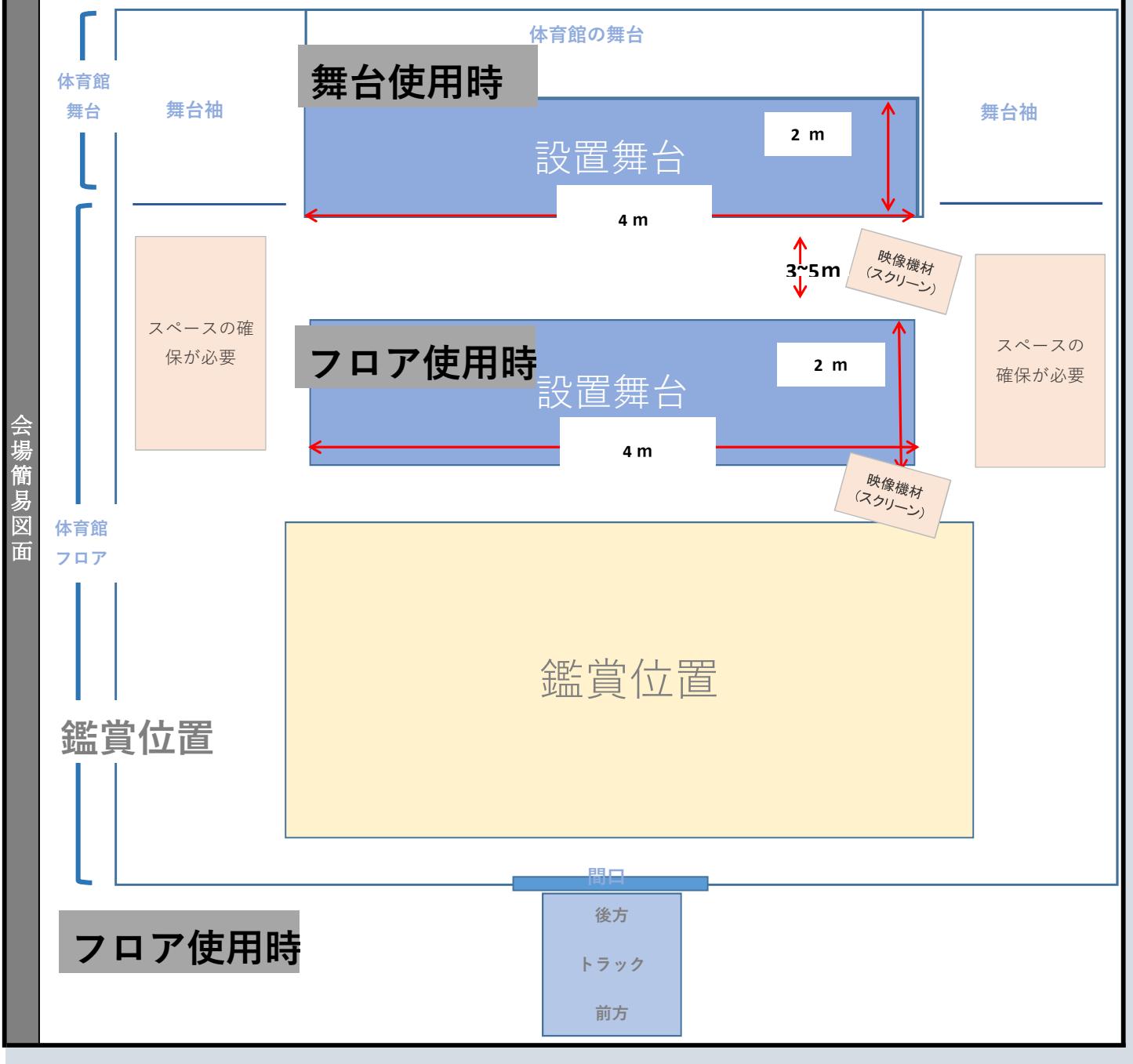
時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。 なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。			
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。				
	対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ				
	ワークショップ				
本公演					
本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。
	個別ヒアリング事項	
	1	楽器が温度・湿度に影響を受けるため、室温調整ができる控え室が好ましいです。
	2	
3		

(任意)

会場条件について最低限必由奈条件がある場合、簡易図面を記載してください。

※搬入に関する条件の詳細については、上記の会場条件欄にて確認してください。



別添

なし

【公演団体名】

平家語り研究会

】

【本事業を通じて実現したいこと】

【「語り芸」が持つ力、そして言葉の力とは何か…を次世代に伝えたい】

日本には数多くの「語り芸」という芸能ジャンルがあります。人々に物語を語って聴かせる芸能です。語り手が伝える物語を受けとめた人々の脳裏には「絵」が描かれます。語り手が紡ぐ「言葉」は、受けとめる人ごとに実にさまざまな「情景」に変わります。

言葉を情景に変換させる力こそ「想像力」と言えましょう。

「語り芸」は、語り手が「身一つ」で伝える芸能と、何らかの楽器(音楽)と共に語り伝える芸能に大別されます。前者は〈講談〉やお馴染みの〈落語〉であり、後者には〈義太夫節〉をはじめとする数々の淨瑠璃や〈浪曲〉などがあります。それら総ての源流と言える芸能こそ、今を遡ること800年前、琵琶法師たちが琵琶に乗せて語り伝えた
<平家(平曲とも)>なのです。

【『平家物語』、そして琵琶法師たちからのメッセージを次世代に伝えたい】

①源平の戦いを通して、「人として大切にすべきものとは何か?」を伝えてきた

『平家物語』。時代の変化と共に「言葉」は大きく異なっていますが、琵琶法師たちが琵琶を奏でつつ、人々を楽しませながら伝えてきた「大切なこと」は不変です。その一端を、現代社会を生きる子どもたちの視線で受けとめていただくことに大きな意義を感じています。

②琵琶法師たちはその後、“プロの音楽家”として、琵琶以外の楽器、[箏、三絃(三味線)、胡弓]を身に付け、優れた音楽を作り、演奏し続けてきました。お正月に耳にする音楽、音楽室で目にする箏や三味線などと、深く太いつながりを持つていることを耳で聴き、伝統文化の価値を体感していただきたいと考えています。

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

【取り組みへの姿勢】

800年前の言葉や音楽ですから、子どもたちのほぼ全員が初めて尽くしの体験となります。また、平家琵琶や胡弓などを見聞きすることも初めてのことでしょう。そこで、緊張感を緩和するため児童・生徒とのコミュニケーションを重視し、「わかる、理解する=勉強しよう」という切り口ではなく、「楽しい、面白い、カッコイイ!」と体感でき、チャレンジコーナーを盛り込むなど、会場が一体となって楽しんでいただける内容・構成・演出で臨みます。

【スクリーンには文字やビジュアル要素を投影しつつ展開】

説明する際の用語や、声を出してもらう言葉には「ルビ」を付けて投影、楽しんでいただるために歴史的資料などはスクリーンに投影しつつ、メリハリをつけてスピーディに展開します。

【学校との連絡調整について】

- 初動の段階では電話及びメールによる基本情報の共有、続いて可能な範囲で、「リモート会議」等による具体的情報のすり合わせ[学校からの要望ヒアリング、当方よりの希望提示、双方の課題共有]を行います。
- ご担当の先生が学校内での共有を図り易くするために、ワークショップ及び本公演までのスケジュールやプロセスを明確にし、各項目を具体的に整理した資料を作成します。
- 随時、学校からのご要望やご提案を受け入れ、学校ごとの個別の状況に対応できる「オーダーメイドな制作体制」で臨みます。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

- 今回見聞きする芸能、音楽は、「源頼朝が鎌倉幕府を開いた頃に生まれ、800年を経た今なお伝えられているもの」…であることを児童・生徒に事前にお伝えいただけすると、大きな興味付けにつながります。必要に応じて分りやすい資料を事前にお渡し致します。
- 『平家物語』は、「祇園精舎」「敦盛」「扇の的」などが中学2年生の国語の教科書で扱われています。学校ごとに授業進度を伺い、予習・復習などにお役立ていただけるようコミュニケーションを図ります。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

- 鎌倉時代から徳川家康が江戸幕府を開くまでの約400年間、日本では日々各地で戦(いくさ)が繰り返されました。琵琶法師たちが伝えた『平家物語』では、戦の中で人々がどのような思いを抱いていたのか、を伝えています。
- また戦がなくなった江戸時代には、琵琶法師たちは現代に伝わるすばらしい音楽を残してくれました。伝統芸能を通して、平和とは何かを児童・生徒の皆さんと考えていただけたらうれしく思っています。

本事業への応募理由等

別添

なし

【公演団体名】

平家語り研究会

】

特別エリア区分で事業を実施するに当たっての工夫	<p>①離島・へき地等における公演実績</p> <p>2004年 「箏&尺八 学校アウトリーチ」 沖縄県うるま市立浜比嘉小学校 主催:(一社)日本音楽著作権協会他 (浜比嘉島全校生徒約30名、2012年に廃校)</p> <p>2019年 巡回公演事業「三味線ナビ♪」 高知県宿毛市立山奈小学校</p> <p>2020年 巡回公演事業「語ってみよう!義太夫節」 長崎県壱岐市立芦辺中学校</p> <p>2021年 巡回公演事業「打てや、囃せや、邦楽囃子！」 北海道別海町立別海中央小学校</p>	【公演団体名】 平家語り研究会
		】
	<p>【特殊な事情がある地域での実施に当たっての工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・C区分のための企画として構成したため、全国津々浦々いかなる地域でも実施できます。 ・出演者3名+スタッフ3名、少人数のチームで実施します。 ・音響はMC用マイクのみで演奏では「生音」で行います。 また、照明機材を用いない明るい学校や音楽室などの空間での実施を前提に構築された企画ゆえ、当方よりの持込機材は極力削減できます。 ・準備が短時間で済むため、ワークショップと本公演を同日内(1日)で実施できます。 また複数の実施校が同地域に存在し、短時間での移動が可能であれば、同日内(1日)2公演にも対応できます。 ・舞台道具や演出はシンプルに〈児童・生徒との交流〉を重視した内容で構成します。 ・スライドや映像などのビジュアル素材を駆使し、少人数による公演でも十分な成果が期待できる工夫をします。 ・出演者・スタッフ共に少人数、また最低限の道具類で実施するため、人件費や輸送費を削減できます。 ・ワークショップで用いる楽器(箏・三絃)は、破損などの心配がなく、扱いが容易な代替楽器を用います。 	
	<p>【質を保つための工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出演者全員が(二十年以上にわたり)、学校公演をはじめとするく普及活動>において豊富な経験と実績を持っており、訪問する学校のご事情、地域的背景などを事前にリサーチさせていただいた上で、ワークショップや公演に臨みます。 ・『平家物語』と関連を有する地域を訪問する時は、関連情報を公演に盛り込むなど地域に寄り添い、参加児童・生徒たちにも共感を得やすい内容に構成致します。 ・中学校の場合は、2年生の教科書で『平家物語』が扱われているため、学校ごとに授業における扱いの状況をリサーチし、その後の学習に役立てるよう努めます。 	
	<p>③特別エリア区分応募における、費用面の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・機材の運搬、スタッフの移動をワゴン車1台に集約 離島などの公演では、すべての道具を宅配または手持ちで持参できるようにします。 ・限られた機材の中でステージセッティングを行うための工夫 児童・生徒から手元が見える程度の高さの簡易な舞台と、スクリーンのみシンプルな設定ですが、プロジェクターに投影された映像を見ながら進行することで、大がかりな舞台セットでなくとも、情報の伝達と見た目の変化が可能となり、子どもたちにとっては新鮮に映る空間演出ができます。 	

リンク先

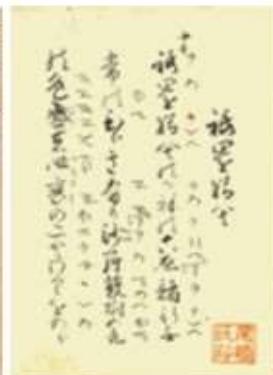
No.2

【公演団体名】

平家語り研究会

】

演目概要：別添(1)



平家琵琶の“譜面”

尾崎家 小秘事1
「祇園精舎」より

琵琶法師（『職人歌合』より）



平家琵琶



平家琵琶を演奏する日吉章吾

項目内容

江戸時代後半に描かれた
三曲合奏の様子
(『歌曲時習考』より)本公演出演者による
三曲合奏の様子三絃(三味線)を
演奏する菊央雄司箏を演奏する
田中奈央一胡弓を演奏
する日吉章吾